

上勝の町

上勝は四国の徳島県にある小さな町です。この町は徳島市の南西約 40 km、勝浦川沿いの山間に位置しており、徳島阿波踊り空港からは車で約一時間半のところにあります。この町には信号機はたった一つしかなく、コンビニは一つもありますが、その小さい規模と人里離れた場所にもかかわらず、廃棄物や地方の過疎化といった現代の課題に対するその取り組み方において、世界的に認知されています。

現状

上勝は四国のすべての町の中で最も人口の少ない町です。面積は 109.68 平方キロメートルで、その 88.3%が森林です。この森林の約 80%は栽植されており、主にスギが植えられています。人口は林業が盛んだった 1950 年代には約 6,000 人というピークに達しましたが、それ以降は都市部への大規模な移住が進んでいます。現在の人口はおよそ 1,500 人で、住民の 53%は 65 歳を超えています（2020 年現在）。このように少ない人口では、警察署も消防署もありません。消防士は皆ボランティアで、他にフルタイムの仕事を持っています。道路清掃員やタクシーの運転手も同様です。この地域の文化には欠かせないものであるボランティア活動は、上勝でよく見られる共同体と奉仕の精神を表しています。

高齢化と過疎化の課題に立ち向かう

地域住民は、急速な高齢化と過疎化の課題に、この町の伝統を生かした斬新なアイデアで対応しています。高齢者の積極的な参加を維持する一例が、1680 年代から比較的変わらない姿で保存されてきた棚田での体験活動の導入です。また、高齢の住民が 2019 年に開校した「かみかつ茅葺き学校」で田植えや茅葺き屋根づくりなどの地域の伝統を教えています。彼らは知識や技術を伝承するとともに、田舎暮らしへの関心を高めているのです。

もう一つの例は高齢者の雇用機会です。女性たちはその技芸と裁縫の腕前をくるくる工房で活かし、使い古した着物や鯉のぼりの生地をバッグやジャケットなどの記念の品に変身させています。この工房は 2013 年にオンラインストアをオープンし、オーダーメイド商品の注文を世界中から受け付けています。多くの高齢者はまた、いろいろと呼ばれる、オンラインで注文を受け付けて季節の付け合わせ（ツマモノ）を全国の飲食店向けに供給する地元企業で働くことで、活発に活動を続けています。

人口の減少は、予算の制約が大きくなることも意味していました。2003 年、一つには大型のごみ焼却施設を導入する余裕がなかったこともあり、上勝はゼロ・ウェイスト実現の宣言をしました。地方自治体、非営利団体、住民、その他の人々がリサイクル率 100%を達成するために協力しました。これまでのところ、彼らは全国のリサイクル率である約 20%を超え、80%を達成しました。住民が協力する一つの方法は、有機廃棄物を家で堆肥化し、地元の店に容器を持参して包装廃棄物を減らすことです。

自然の美しさ

上勝の山に囲まれた環境、深い森、澄んだ水、霞の立ち込めた谷、そして曲がりくねった道は、現代の都会生活とは全く対照的なものを見せてくれます。地域住民はまた、絶滅の危機にあるセコイアや、クボノオオスギと呼ば

れる樹齢約 1,500 年で高さ 60 メートルのスギの木など、上勝特有の森林やその希少な樹木の保全にも取り組んでいます。上勝にある多くの河川は、カヤックやスタンドアップパドルボードなど、さまざまなウォーターアクティビティを提供しています。また上勝は盆地にあり、周りを囲む山々が周辺地域の人工光を遮るため、素晴らしい星空観察スポットでもあります。